

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.215

2023. 9. 1

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」 岩手の署名は 30,966 筆（～8月末。うち郵送 351 通・1,364 筆）

◇返信用封筒もあります。地域配布等に活用ください。ご希望の団体は岩手県生協連まで。

“戦争も核兵器もいらない”戦争の悲惨さと平和の大切さを継承—いわて生協—

「わが子を戦場へ送りたくない」「子どもたちに平和な未来を残したい」…親であれば誰もが持つ共通の願い。よりよいくらしも、平和なくしてはありえません。いわて生協では、戦争の悲惨さや被爆体験を風化させず語り伝え、平和の尊さを親子で考えあう取り組みを粘り強くすすめています。

「核兵器が一つもなくなることを一人ひとりが願う世界に」～ピースアクション in ヒロシマ～

被爆の実相と平和の大切さについて学び、次世代への継承と核兵器廃絶に向けた取り組みを共有することを目的に「ピースアクション in ヒロシマ」が開催され、全国から組合員・職員が参加しました。いわて生協からも、4年ぶりに組合員の代表として3人が参加しました。参加者の一人、中村奏仁くん（小4）の感想を紹介します。

8月4日～6日、広島に行ってきました。原爆くドームを見て、ここであくさんの人が亡くなったと思うととてもおそろしく、こわかったです。8月6日の朝は広島はとても天気がよく、セミの音が「ミンミン」となっていました。78年前も同じように天気がよかったとききました。ぼくは今9才です。78年前、ぼくみたいな子どもたちは、建物疎開（の作業）をしていたと聞きました。もしぼくがその場にいたら、体じゅうにやけどをおって苦しんで死んでしまったと思うとこわくなりました。

平和きねん公園を周って歩いてみたら、千羽づるがいろんなところにありました。千羽づるをつくった人は、平和な世界がくることを願いながらおったとおもいます。こんなにたくさんの願いがあるのだから、みんなの願いが世界中に届くといいなと思いました。

ぼくがいんしょうにのこったのは、スイスの医学者マルセル・ジュノーさんです。この人は広島に原爆くがおとされてから、ひばくした人たちを助けてくれました。日本にきて GHQ とこうしょうして約 15 トンの薬を入手し、ちりょうを始めたそうです。ジュノーさんのように いろんな国の人が日本人をたすけようとしてくれたことをはじめて知りました。国と国がたたかうのではなく、おたがいに助け合える世界であってほしいです。

かくへいきのおそろしさを、ぼくは資料館にいてあらためて知りました。かくへいきが世界から一つもなくなることを一人一人が願う世界にしたいです。広島に行っていていろいろなことを知りました。ありがとうございました。



長崎原爆投下から 78 年、平和への思いをあらたに ～平和のつどい～



8月9日に、盛岡市高松の池にある平和祈念像「望み」の前で「平和のつどい」を開催、組合員ら30人が参加しました。平和のつどいは、終戦 50 年の 1995 年に県民の募金によって建立された「望み」像前で毎年開催し、今回で27回目です。

長崎に原爆が投下された午前 11 時 2 分に合わせ、盛岡ハリストス正教会の鐘が鳴り、一同で黙祷を捧げました。

「ピースアクション in ヒロシマ」に親子で参加した中村靖子さんは、「被爆の恐ろしさを後世に伝えようと頑張っている高校生がいた。真剣に向き合わなくてはいけないと感じた」と報告しました。

当日は、参加者で祈念像周辺の清掃を行い、約500人の組合員で折った折り鶴を像に掲げました。また、平和を考えるクイズや、釜石艦砲撃体験者のインタビュー報告なども実施。いわて生協佐藤愛理常務理事が、「少しでも平和について考えるきっかけになってもらえれば。戦争体験者から話を聞ける時間は限られている。子どもたちとともに貴重な機会としたい」と話しました。

“少数派”であっても恐れず足元から変えていこう”～金平茂紀さんリレー講演会～

市民アクション岩手の会主催で、元 TBS 報道特集キャスターの金平茂紀さんを招き、7月23日に大船渡会場（30人参加）、7月24日に盛岡会場（100人参加）で講演会を開催しました。

金平茂紀さんは、ウクライナ情勢等国内外の政治動向を紹介し、「正義に反する行為を止めるには、武力行使ではなく外交で停戦・休戦を考える『平和論』に対し、戦争も辞さないという『正義論』の考えが世界の大勢になっている」と指摘。安倍元首相襲撃事件以降、政権時の功罪検証が進まず、旧統一教会問題も幕引き圧力が強まっていたり、アルプス処理水放出や原発回帰の動きも原発事故をなかったことにするかのよう動き

で「新しい戦前」の最たる兆候だと説明しました。

そして、言論の自由が奪われ、次世代に負担が先送りされる国内情勢に危機感をにじませつつ、親交の深かった坂本龍一さんの音楽や発言等を紹介しながら、「政治は永田町や霞が関に事柄ではない。少数派であっても身近な足元から変えていこう」と訴えました。

また、24日夜は、盛岡会場において、大学生・青年との意見交流も実施しました。

参加者からは、「メディアが正しいことを流していない。情報を鵜呑みにせず、自分の意見を持つよう心がけたい」、「今は同調圧力で言えない空気感が強いが、平和や戦争について自分で考え行動できる大人になりたい」等の感想が出されました。

＝見逃し配信はこちら URL⇒<https://www.youtube.com/watch?v=zuS-2Wb3mBA>

※動画内に著作権で保護されている箇所があります。その部分は、無音状態になっていますので、ご了承ください。



コラム＝ 台湾海峡安定、「戦う覚悟」が必要との自民副総裁麻生氏の発言、日本国憲法下の日本国民は許してはいけない！ ＝

連日の猛暑のなかロシアのウクライナ侵攻も戦況報道ばかりで、「停戦」「和戦」の外交議論がなかなか沸き上がらない状況であるとき、自民副総裁の麻生氏が台湾に出かけて行って「日米や台湾に『戦う覚悟』が求められている」と主張したとのこと、「ウクライナの次は台湾有事！」とアメリカが喧伝するなか、日本国憲法下の日本国民が許すことの出来ない「発言」ではないでしょうか。

報道を抜粋してみよう。

「【台北共同、8月9日付け岩手日報紙】自民党ナンバー2の麻生太郎副総裁は（8月）8日、台湾の蔡英文総統と台北の総統府で会談し、軍事的圧力を強める中国を念頭に日台間の連携を深める方針確認した。これに先立つ講演では、台湾海峡の平和と安定には強い抑止力が必要で、そのため日米や台湾に『戦う覚悟』が求められていると主張した。」…講演では「今ほど日本、台湾、米国などの有志国に強い抑止力を機能させる覚悟が求められている時代はない」と力説した。「最も大事なものは、台湾海峡を含むこの地域で戦争を起こさないことだ（安っぽい「二律背反」の弁明）」とも語った。

コラム子は九条の会の運動に参加していますが、「新しい戦前」の彼らの言動を許すことが出来ません。こんなふうにして「戦争の準備」が始められるのだと思います。皆さん、如何でしょうか？日本国憲法前文は「再び政府の行為によって戦争の惨禍が起こることのないよう決意してこの憲法を確定した」としています。我々は「麻生発言を許さない！」と声をあげ続けよう（T）

「9月の街宣署名行動」

8日(金)12:15～12:45 盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加下さい。